

シーニックバイウェイ北海道 ルート審査委員会（第1期）
（平成17年5月9日任命）

北海道大学大学院教授 小林 英嗣（委員長）

筑波大学大学院教授 石田 東生

北海道大学大学院助教授 高野 伸栄

（社）日本旅行業協会理事・事務局長 石山 醇

NPO 法人北海道・花ネットワーク 理事 三島 敬子

財団法人 日本放送協会放送総局 目加田 頼子

7. シーニックバイウエイルート審査委員会による審査結果概要

(1) シーニックバイウエイルート

①大雪・富良野ルート

視点 委員	1					2	3	4	推薦 可否	付帯意見
	景観	自然	文化	歴史	レク					
A	○	○				○	○	○	○	①活動実績の不足②連携力の不足③旧世代型観光から新しいツーリズムへの構造転換の必要性と人材育成が必要
B	○	○	○		○	○	○	○	○	特になし
C	○	○				○	○	○	○	特になし
D	○	○			○	○	○	○	○	特になし
E	○	○	○			○	○	○	○	自治体との調整
F	○	○				○	○	○	○	

②支笏洞爺ニセコルート

視点 委員	1					2	3	4	推薦 可否	付帯意見
	景観	自然	文化	歴史	レク					
A	○	○	○		○	○	○	○	○	1) 活動内容やその成果の‘外部評価’システムと‘外部アドバイザー’制度の導入 2) エリア・リーダーの研鑽・研修と国際的な水準への視点の確保、活動の継続と地域コミュニティとの協働を実現する人材育成
B	○	○			○	○	○	○	○	特になし
C	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
D	○	○			○	○	○	○	○	文化・歴史面での取り組みの強化
E	○	○			○	○	○	○	○	自治体との調整
F	○	○				○	○	○	○	

③東オホーツクシーニックバイウエイ

視点 委員	1					2	3	4	推薦 可否	付帯意見
	景観	自然	文化	歴史	レク					
A	○	○				○	○	○	○	一部活動団体による景観資源収奪型の活動にならないよう流水ステージと峻別された田園・山岳ステージのシナリオを磨く。地域活動には、地域コミュニティの協働・連携が不可欠。農山村と漁村とがコミュニティを支える精神や行動への構造そしてモチベーションが共有化されていない。
B	○	○			○	○	○	○	○	特になし
C	○	○	○			○	○	○	○	
D	○	○				○	○	○	○	
E	○	○				○	○	○	○	ブランディング等知名度の向上が必要
F	○	○				○	○	○	○	

(2) シーニックバイウェイ候補ルート

① 釧路湿原・阿寒・摩周ルート

視点 委員	1					2	推薦 可否	付帯意見
	景観	自然	文化	歴史	レク			
A	○	○				○	○	企画・計画の熟度が不足
B	○	○				○	○	特になし
C	○	○				○	○	特になし
D	○	○				○	○	
E	○	○				○	○	特になし
F	○	○				○	○	

② 函館・大沼・噴火湾ルート

視点 委員	1					2	推薦 可否	付帯意見
	景観	自然	文化	歴史	レク			
A	○		○			○	○	目標の共有化が行われておらず、広域で連携しながら進める運営体制も未熟であるため。
B	○		○	○		○	○	特になし
C	○	○	○	○		○	○	特になし
D	○	○	○	○		○	○	特になし
E	○			○		○	○	特になし
F	○	○				○	○	

シーニックバイウェイ審査委員会 意見

■シーニックバイウェイルート

◆シーニックバイウェイルート全体に対する意見

道外、国外の地域づくりの事例を踏まえると成功のポイントは、「自主性」「挑戦」「活動のネットワーク」「人材育成」「住民との連携」など挙げられる。これらに留意しつつ、地域に合ったスピードで具体的な活動を展開していくことが望ましい。

特にシーニックバイウェイルートにおいて特に以下の点に留意しつつ進められたい。

- ・景観への取り組み：景観意識の向上、景観や地域資源を生かしたコミュニティビジネスの創出
- ・持続性の確保：参加する各主体（国、道、市町村、活動団体、住民）による持続的な責任ある行動とその活動や成果に対する外部評価やアドバイザーの採用
- ・地域特性の活用：北海道特有の気候風土を生かし、常に新しいものの追加、物語性の充実、国際競争力の強化を進め、通年性、持続性を確保
- ・ホスピタリティ向上：研修プログラムの実施、地域での多様な人材育成
- ・全国・世界への情報発信、旅行会社等民間企業との連携
- ・開かれた運営体制：継続的な参加者の募集、地域住民やコミュニティとの連携・協働
- ・既存観光地からの脱却を目指し、歴史・文化・レクリエーションなど幅広く地域の個性を生かした新たなツーリズムの展開に向けた取り組みの実施

◇ 支笏洞爺ニセコルート

今後、3エリアがひとつのテーマでつながり、ブランド化されるため、一層連携した取り組みが必要であるとともに、十分な体制と支援が必要である。

地域住民、旅行者が共有できるようなテーマ、ルート名（愛称含む）等の工夫が引き続き必要である。

ウエルカム北海道エリアについて、市街地部の景観改善が本ルートの重要な役割を担うことから、景観意識の向上等に継続的に取り組んでいく必要がある。

「食」文化について一層の取り組みを期待したい。

◇ 大雪・富良野ルート

TVやCMでの知名度と自然、農業等の地域固有の資源との調和が必要である。

地域住民、コミュニティ、多種多様な主体の参加・協働を一層進めるとともに、広域的な連携を行い、特に市街地部、屋外広告物等の景観の改善や自然との調和、郊外部と市街地との連携、視点場の設定と演出等に取り組んでいく必要がある。

「花人街道」の取り組みの成果と評価を行い、その知見を今後の活動計画に反映されたい。

本地域の特色ある自然・歴史・文化・地域の生活等を生かしつつ、主要産業である農業と連携した新たなツーリズムの取り組みについても検討されたい。

◇ 東オホーツクシーニックバイウェイ

世界遺産登録を控える当エリアの自然資源は申し分ないが、広域的な連携・協働を行う場合、当エリアに存在する農山村、漁村、観光地などの個性ある地域、資源、人材の連携には十分な議論と工夫が必要である。特に参加団体が多いことから、ルート運営活動計画の趣旨を幅広く共有できる取り組みが必要である。

■ シーニックバイウェイ候補ルート

◆ シーニックバイウェイ候補ルート全体に対する意見

今後、地域の住民、コミュニティ、その他多種多様な主体の参加を継続的に促し、参加者がシーニックバイウェイの趣旨を十分に理解し、ルート運営活動計画の策定を通して、目的の共有化を幅広く図ることに努力することが重要である。

また、活動計画の内容が偏ったものとならないよう広域性に留意されたい。

◇ 釧路湿原・阿寒・摩周ルート

今後、さらに資源の発掘、ルート活動の取り組み、活動団体や関連団体との連携・協働のあり方などについての議論と合意形成、価値意識の共有等に取り組まれない。

本ルートは東オホーツクシーニックバイウェイと幾つかの峠で隔てられており、将来的にはオホーツクエリアとの連携も視野に入れた取り組みも行われたい。

◇ 函館・大沼・噴火湾ルート

近世の歴史的、文化的資源についての発掘、青森などとの連携も視野に入れるなどルートのブランド化に向けた広範な工夫が必要である。

達成可能な中期目標や実行可能な運営体制の確立が必要である。